

ペガサス・スキャンダル続報

フランスのマクロン大統領もスパイ対象になっていたイスラエル製のスパイウェアについて、その売買の仕組みが明らかになっている。

イスラエル企業 NSO グループは、ペガサスの販売にあたって、一律 50 万ドルの販売価格を設定し、さらに携帯電話の種類ごとに使用ライセンス額を設定している。たとえば、iPhone の場合は 10 件の携帯電話への使用料は 65 万ドル、Android の場合には 10 件の使用料は 50 万ドルである。追加 100 件の携帯電話への使用料は 80 万ドル、追加 50 件の携帯電話への使用料は 50 万ドルとなっている。さらに、NSO は年間システム維持費として、全購入額の 17% を請求している。

ハンガリー政府は 300 件の携帯電話を対象としているから、初期費用だけでも 5 億円近い金額を払っている。NSO グループは国策企業であり、ネタニヤフ首相自身が首脳会談の度に購入を打診していたと思われる。

NSO 企業グループに登録されている携帯電話情報 5 万件が漏洩したのは、NSO グループで働いていた人物のリークからである。このうち、ハンガリーの携帯電話情報 300 件について、逐次、解明情報が明らかにされているが、昨日の反政府メディアの報道に依れば、2014 年からオルバン政府のパクシ原発拡張事業の責任者に任命されたアソディは、2017 年の当時の上司であるシュリ・ヤーノシュ大臣（原発担当）と作業工程をめぐって対立し、その後次官を解任されたが、2018 年から所有する携帯電話が盗聴対象となった。2019 年に政府を離れる際に、その携帯電話の返却を迫られた。

Fidesz 政府関係の人物でも、主要方針に反対意見をもっている人物は盗聴対象となったようである。昔の社会主義時代への逆行である。各野党は所属の政治家が盗聴対象になっているか否かの調査を行うことを決めた。現在、国会の国家安全保障委員会は野党 Jobbik の議員が委員長になっており、月曜日に会議の開催を決めた。内務大臣のピンテルは出席の意向を示している。委員長はシュリ・ヤーノシュの出席も求めている。他方、与党 Fidesz の副委員長は会議開催の必要はないという態度をとっており、与党議員は欠席戦術で委員会の成立を阻止するようである。官房長官グヤーシュも、「国際的なヒステリー」と表現してペガサス問題を議論しない意向を示している。

「ラディカリズム、リベラリズム、オールタナティブ」を掲げて政界に進出した Fidesz は、長期の権力維持を通して、「保守主義、権威主義、独裁」へと党の性格を変えている。ロシアや中国と連携し、「国内問題に介入すべきではない」とそれぞれの国の専制的政治を容認している Fidesz は、明らかにその党の姿勢を 180 度変えた。盗聴対象を決定するのは政府の権限と居直る Fidesz 政府は、「すべての権力は腐敗する」という名言を地で行っている

る。自らの変身を自覚することなく。ますますロシアや中国の権威主義的な政治体制への親近性を高めている。

ちなみに、EUの首脳会議で、オルバン首相は「dictator」と別称されている。首脳が並ぶ写真撮影時に、前ユンケル委員長から「Hello! Dictator」と頭を撫でられている光景がビデオ撮影されている。「権力維持が目的化すれば、右も左も同じ」ということを教えてくれる。